地域の夏祭り紹介

～京都学生祭典と地域の祭り～

エコサマーフェスタ（京都市下京区：梅逕学区）

元々は安寧地区で行われていた祭りではありますが、ここ 10年では梅逕地区を中心に開かれています。エコサマーフェスタは夏休みの子どもたちの思い出作りとして、更にはその中でお金もかからずゴミも出ない“エコ“をテーマに工作ブースや食べ物ブースが設置されているお祭りです。当時から京都学生祭典はボランティアとして参加しており、ブースを出し協力させてもらっている祭りです。

梅逕安心安全ネットワーク代表の加藤純一さんは、今年度は残念ながら開催する事はできなかったが、学校を上げて盛り上げ、学生祭典と共に作り上げたいと仰っています。また、学区に拘らず広い地域から、多くの世代が参加でき、幸せのあふれるようなお祭りにしたいと考えておられます。

生祥夏祭り（京都市中京区：生祥学区）

生祥夏祭りは約25年続いている祭りで、京都学生祭典も数年前からお手伝いさせて貰っている夏祭りのひとつです。生祥夏祭りができた経緯に、生祥小学校の統廃合が大きく関わっていて土地を利用する案も出ましたが、なかなか決まらず、残った校舎や物を活用しようという所から生祥夏祭りが誕生しました。

生祥夏祭りはグラウンド真ん中に、大きな櫓が建ちます。その櫓は他の自治連合会が捨てる予定の物だったのです。櫓を囲んで盆踊りをする事や、祭りの最後の時間には、皆で楽しめる「マイムマイム」も踊ることが恒例となりました。

生祥夏祭りを行うことが年齢層の壁を越えて、地域の結束力が強くなり「災害に強いまちづくり」になっていると生祥自治連合会の会長、中村勝さんは語っています。また、新型コロナウィルス感染症の影響で、一度も途切れたことの無かったものが勢いをそのままにすることは難しいが、それをどう、巻き返すのか、勢いを付けさせていくのかが来年の課題だとおっしゃっておられます。

安寧夏祭り（京都市下京区：安寧学区）

元は安寧学区と梅逕学区が共同で夏祭りを開催していましたが、O157（おなかが痛くなる菌）や和歌山カレー毒物事件の影響をうけ、一時中止していました。現在は、安寧自治連合会が主催となって安寧学区単独で開催されています。安寧夏祭りは地域の各団体がブースを出展しており、その中に京都学生祭典もゲームの運営という形で参加し、楽しませていただいております。最後には花火も用意されていて賑やかに締めくくられます。子どもたちが楽しめる賑やかなお祭りを目指そう、と現在の形になりました。

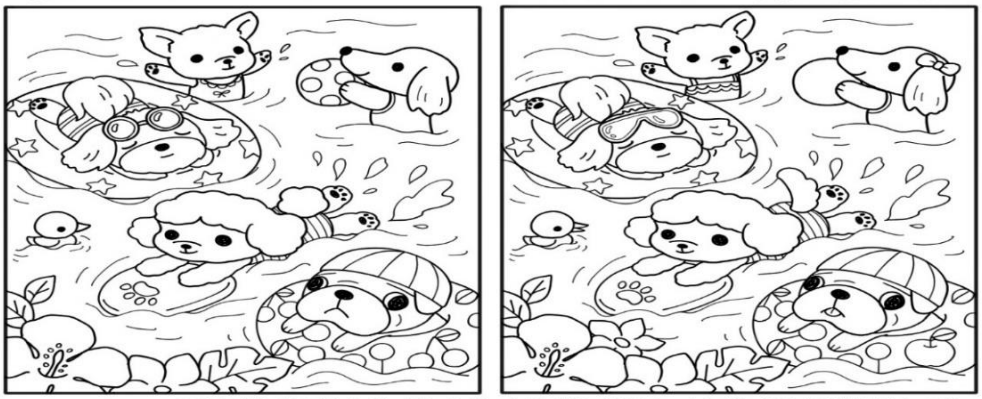
今年は地域の体育祭も中止となるなど地域での楽しむ機会が少なくなってしまったので、来年は準備の段階から学生と力を合わせて楽しく盛り上がれるようなお祭りにしたいと安寧自治連合会会長の松村宗一さんはおっしゃっておられます。

紫竹まつり（京都市北区：紫竹学区）

1991年（平成3年）に紫竹小学校創立50周年を盛り上げるため、地域の各種団体が協力し開催されたのが紫竹まつりです。紫竹学区の夏を飾るお祭りとして地域の方々に親しまれています。

京都市立加茂川中学吹奏楽部の演奏をはじめとするステージ企画や各種団体による屋台など、地域が一体となって毎年開催しておられます。お祭りを開始する午後から、夜の閉会まで楽しむ来場者も多く毎年約3000人の来場者があるとのことです。近年は「水かけ祭り」や「シャボン玉企画」など、新たな企画を積極的に実施しておられ、京都学生祭典実行委員の私たちも協力させてもらっています。「2020年度はコロナウイルス感染拡大に伴い実施ができなかったが、そのエネルギーは来年度爆発させられるよう準備したい」と2019年度実行委員長の筑田一毅さんはおっしゃっておられます。

まちがいさがし＆ぬりえ　10コあるよ



とえ　①目キーホルダーの水着がちがう　②ボールの柄がちがう　③ダックのリボン　④シューズのケッケうス　⑤アヒルのクチバシ
⑥ビーチ板の絵がさかさま　⑦トイプーのしっぽ　⑧花のかず　⑨いぬの舌　⑩いぬのうきわの柄がちがう

オンラインスタンプラリーのキーワードは…

〇安〇〇

発行元：京都学生祭典実行委員会
年間交流部
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下るキャンパスプラザ京都内